

二九精密機械工業株式会社

「技術革新のため、外部人材を積極的に採用。
世界トップの技術者集団を目指す」

事業内容

微細・精密加工の技術力が強み。
社員が考え、行動する企業で右肩上りの成長を実現

二九精密機械工業株式会社は、主に医療用処置具や半導体製造装置、分析・測定機器などの精密機械部品を製造している。チタンなどの難削材の精密・微細加工を得意としている。特に「βチタンパイプ」は、血液検査機器部品、単孔式内視鏡手術用鉗子など手術器具などに利用され、その特性から様々な産業機器のニーズに対応している。医療機器、分析機器、半導体・電子部品等のリーディングカンパニーから高い技術的評価を受けている。

代表取締役社長 二九氏は、4代目の社長として2009年に就任し、その手腕を振るっている。「僕はあれこれと指示しない。夢を語るだけで社員に任せる。トップの夢を現実にするために、任せられた幹部社員は考え、役割を分担

して、達成できる仕組みを作ってくれる。僕はそういう組織を作ってきた。」と二九氏は話す。強固な組織体制を構築、維持し続けながら、2016年度の売上高は32億円を達成し、右肩上がりの成長を見せている。



外径0.5mm、内径0.3mmの「βチタンパイプ」の開発に成功

外部人材活用・人材投資に注力した背景

顧客の課題解決力とマネジメント力を強化するため、積極的に外部人材を採用

現在同社には、本社(京都府京都市)、八木工場(京都府南丹市)、京都工場(京都府京都市)があり、在籍する社員が180名を超える。二九氏は、「以前の小規模の中小企業なら、社長自身が陣頭に立って細かく指示も出せた。しかし、現在のような規模になるとそれも出来なくなった。」と言う。また、「現場叩き上げの社員が多く在籍しているから、モノづくりは出来るが、マネジメントが出来る人材がまだまだ不足している。」と語る。会社の規模が大きくなるにつれてマネジメントが出来る人材の必要性を感じていた。また、今後の経営についても、「自分が引退後、社員が困らぬように、新しい社長には優秀な幹部と一緒に会社を支えてもらいたい。」と将来を見据えている。

同社のビジネススタイル・強みは、取引企業の設計担当者の想いを形にすることができることである。すでに図面が出来上がった仕事を取りに行くのではなく、課題解決型のモノづくりで、取引先の設計担当者が技術的課題に困

て相談に来られることが多い。顧客の悩みをいかに早く解決するかを重視している。設計担当者の顧客対応力を高めようと、8名の営業担当者に4名の技術スタッフを配置し、顧客の技術的解決をサポートしている。

クライアントも業界を牽引するような企業が多いため、技術的課題もより高度化している。その要求に答えるため、営業をサポートする技術者もさらにレベルの高い人材が要求されてきている。また、取引先企業からの受注量拡大に伴い、質と量の両面で技術者の獲得が必要となっている。この状況に対応するため、積極的に外部人材を採用している。



代表取締役社長 二九 良三 氏

二九精密機械工業株式会社

〒601-8454 京都府京都市南区唐橋経田町33-3
TEL: 075-661-2931 FAX: 075-661-2937
<http://futaku.co.jp>

〈代表者名〉二九 良三
〈創業年月〉大正6年3月
〈資本金〉30,000千円
〈従業員〉186人
〈業種〉精密機械部品切削加工
小径βチタン合金パイプの製造・販売・提案
眼鏡ゆるみ止めネジ等の販売

外部人材活用の成果と今後の展開

社員とその家族を大切にす会社
世界一の技術者集団を目指す

今期は、新卒採用も合わせて30名が入社した。そのうち8名が即戦力目的で採用した外部人材(主に技術者と管理職)である。また、入社に当たっては家族ごと一緒に京都に引っ越してきてもらうのが前提という。同社の人事責任者である大川氏は、「今年、大手メーカーで勤務経験のある優秀な方が、当社に魅力を感じていただいて応募して下さりました。でも、社長は単身赴任で京都に来るなら断ってくれというのです。長期の単身赴任が、その方の家族にとって幸せかと聞くのです。それを聞いて私自身、カルチャーショックを受けました。一般的に、単身赴任は当たり前という企業が多いと思いますが、社長は社員とその家族のことを深く考え、これほど社員の家庭を大事にしているのかと改めて思い、感動しました。結局その方はご家族と一緒に京都に来て、入社して下さいました。」と語る。このような同社の考え方が、労働環境や福利厚生にも表れている。

例えば、社員が万が一の手術や入院時に生活費の一部を援助出来るように医療保険に加入した。当初、過去の病歴等で契約条件が合わず、契約が出来ない社員もいたが、複数の保険会社を利用することで全社員の医療保険加入も実現した。また、社員に誕生日や結婚記念日などの

メモリアルデーに有給休暇を取得することも今後推奨していきたい。このような同社の取組が認められ、2017年10月に京都市から「真のワークライフバランス」推進企業として、市長賞を受賞することになった。

今後の展開については、二九氏は「サプライヤーとして、技術力で世界のトップ企業を目指す。」と言う。そのためにも会社のステージを一つ上げることの必要性を感じ、2017年11月に関西大学イノベーション創生センター内に研究室も立ち上げた。また、本社の拡張工事も進行中である。

今後、八木工場(京都府南丹市八木町)に隣接する新工場を建設する予定もあり、設備投資にも意欲的だ。その新工場には、同社と関係の深い協力会社にも入居してもらい、より強い関係強化を図ることも視野に入れている。「一つの工場の中でこれまで以上に綿密な連携を図ることで品質や顧客サービスの向上に繋げ、ネットワークの中で相互に技術力の向上を目指せる環境をつくりたい」と外部人材活用にも意欲的だ。



二九精密機械工業株式会社 本社(京都府京都市)



八木工場(京都府南丹市)